

2022年2月18日 SWIM研究会

# エンパワメント型アーツセラピーの 評価手法

○大阪市立大学 小村みち  
静岡理工科大学 林 章浩

## 発表概要

| Chapter                  | Contents  |
|--------------------------|---|
| 1. はじめに                  | <ul style="list-style-type: none"><li>• 本発表の趣旨・目的</li><li>• 用語の説明</li></ul>                             |
| 2. エンパワメント型アーツセラピー*研究の経緯 | <ul style="list-style-type: none"><li>• 先行研究の概要</li></ul>   |
| 3. エンパワメント型アーツセラピーの現状と課題 | <ul style="list-style-type: none"><li>• エンパワメント型アーツセラピーの定義・範疇</li><li>• エンパワメント型アーツセラピーの現状と課題</li></ul> |
| 4. エンパワメント型アーツセラピーの評価指標  | <ul style="list-style-type: none"><li>• エンパワメント型アーツセラピー活動評価シートの提案</li></ul>                             |
| 5. 今後の課題                 | <ul style="list-style-type: none"><li>• 今後に向けた展望・方針</li></ul>   |

\*エンパワメント型アーツセラピー（Empowerment Arts Therapy ; EAT）

## 1.1. 本発表の趣旨・目的

- 地域社会で展開されているEAT活動の現状と課題の明確化
- EAT活動の担い手と利用者が共有できる評価指標確立を目指し、EAT活動評価シートの提案

## 1.2. 用語について

- アーツセラピー：絵画，音楽，演劇，舞踊等の芸術的手法を活用した心理療法／精神療法の総称．芸術療法．
  - 狭義のアートセラピー（造形芸術を用いたセラピー），音楽療法，心理劇，ダンスセラピー等を包含する
- エンパワメント型アーツセラピー（Empowerment Arts Therapy ; EAT）：市井で行われるアーツセラピー活動．詳細は後述．

## 2.1. EAT研究の経緯

1. 甲南大学人間科学研究所（KIHS）調査 2008-11
  - 「芸術と芸術療法の共有基盤確立に向けた学際的研究」
  - EAT研究の問題意識の起点となったパイロット調査
  - **日常に広がるアーツセラピー**の存在，意義の把握・認識
2. アートセラピー\*の全国実態調査 [ATAS-I] 2012-14
  - **市井のアーツセラピー**の実態把握のための調査
3. エンパワメント型アートセラピー\*の構成要件の解明と評価基準の開発 [ATAS-II] 2015-17
  - 活動の担い手のための**自己評価**項目の提案

\*研究プロジェクト実施時点では総称として「アートセラピー」の語を使用

## 2.2. ATASの研究課題

1. 方法，内容，および質の点で千差万別の「なんだかよくわからない」アートセラピーを，その**実態**に即して明確にし，**分類・整理**して特徴づける。
2. **社会的に位置づけ**，社会的認知を得られるようにする。
3. 活動内容や質に見合った適切な**評価**を行えるようにする。
4. 評価内容が活動に反映され，**安全**で，より**質**が高い活動へとつながるようにする。

## 2.3. 現在までの進捗・成果

| 課題項目           | 研究成果  |
|----------------|---|
| ①実態把握          | 全国実態調査（2013）：アンケート，インタビュー（半構造化面接），活動参与観察等           |
| ②分類・整理         | アーツセラピーの5系統，PAT/EAT関係図 [図3.2.]                      |
| ③社会的位置づけ       | アート / セラピー / エンパワメントの位置関係整理 [図3.2.]                 |
| ④評価基準          | 活動評価チェックリスト（2017 / 2022：本発表）<br>EATのためのハンドブック [作成中] |
| ⑤安全性・質の向上，認知拡大 | [継続的課題]   |

### 3.1. EATとは(1) —PATとEAT

- PAT (Psychopathological Arts Therapy, 精神病理学的  
アートセラピー)
  - 臨床的, 治療的なアプローチに基づくアートセラピー
  - いわゆる**芸術療法**
- EAT (Empowerment Arts Therapy, エンパワメント型  
アートセラピー)
  - 多様な**市井のアートセラピー**を包括的に説明するための  
学術的な説明概念
  - PATに対し, EATの特徴や独自性を明らかにするため,  
ATAS研究において提唱

### 3.1. EATとは(2) —エンパワメントの概念、歴史的変遷

- エンパワメント empowerment
  - 「権限を持たせること」「力をつけさせること」などの意
  - 中世イギリス：教会が領主に一定の権限を付与すること
  - 20世紀：公民権運動、フェミニズム等の分野で使用
    - 意味の拡大・転換
  - 現在：生きづらさや困難を抱えた人全般を対象とし、その人に内在する資源や能力に働きかけ、本人がそれに気づき、活性化し、主体的に思考・選択・主張できることを支援することを指すようになってきている【ATASでの捉え方】

## 3.2. EATの現状—実態および特徴

1. 全般的に健康度の高い人が対象
2. 福祉や教育など多岐にわたる活動分野（図1～3）
3. 実践から内発的に立ち上がってきた活動が多い
4. 既存の技法や理論をベースに，オリジナルな要素を含んだ展開
5. **ボランティアベースの運営が多い**
6. **一部の担い手に能力不足・認識不足が認められる**

|       |  |
|-------|--|
| 心理療法系 | 専門的な診断と治療の必要な人＝具体的に行動面や社会生活に問題が生じている人，また精神疾患と診断される（診断され得る）人が対象．問題・症状の緩和や治療の中心的あるいは補助的な手段として実施．目指す内容として自己探知系と重なる部分が多い．  |
| 自己探知系 | 比較的健康度の高い成人が対象．気晴らし・ストレス解消・保養・癒し・自己解放・自己発見・自己肯定・QOL向上などが主な目的．その他，問題に向き合う，精神疾患を予防するなど．心理療法系につながる場合もある．  |
| リハビリ系 | 脳機能障害者が主な対象．機能回復，症状の進行抑制・緩和・安定などが目的．高齢者対象の認知症の予防，認知症の進行抑制・緩和・安定も含む．ADL(日常生活動作)や言語機能の向上，障害の自己受容が目的のリハビリテーションを補助あるいは牽引する．心理面にも関わるが，基本的に心理療法ではない．                       |
| 発育支援系 | 子ども・若者が対象．遊び要素のある自由な表現を通じ，抑圧からの解放・自己表現の促進，自信を持たせ，自己肯定感を高めるなどが主な目的．種々の障害児に対しては，社会的自立，QOLの向上を目指す「療育」の一手段となる．心理療法につながる場合もあるが，基本的に異なる．ここには保育者に対する子育て支援の要素が含まれる．          |
| 表現支援系 | 各種障害のために通常のコミュニケーションや社会生活が困難な人，あるいはその症状の表れとして内発的に表現活動を行なう人が対象．非言語的な表現行為によって外部世界と接触・交流ができる，充実した時間を過ごせることでQOL向上を目指す．その結果としての制作物がアート市場に出る可能性もあり．心理面にも関わるが，基本的に心理療法ではない． |

図1 アーツセラピーの5系統（2014／2019改訂）：ATASによる分類

精神病理学的アプローチ

エンパワメント・アプローチ

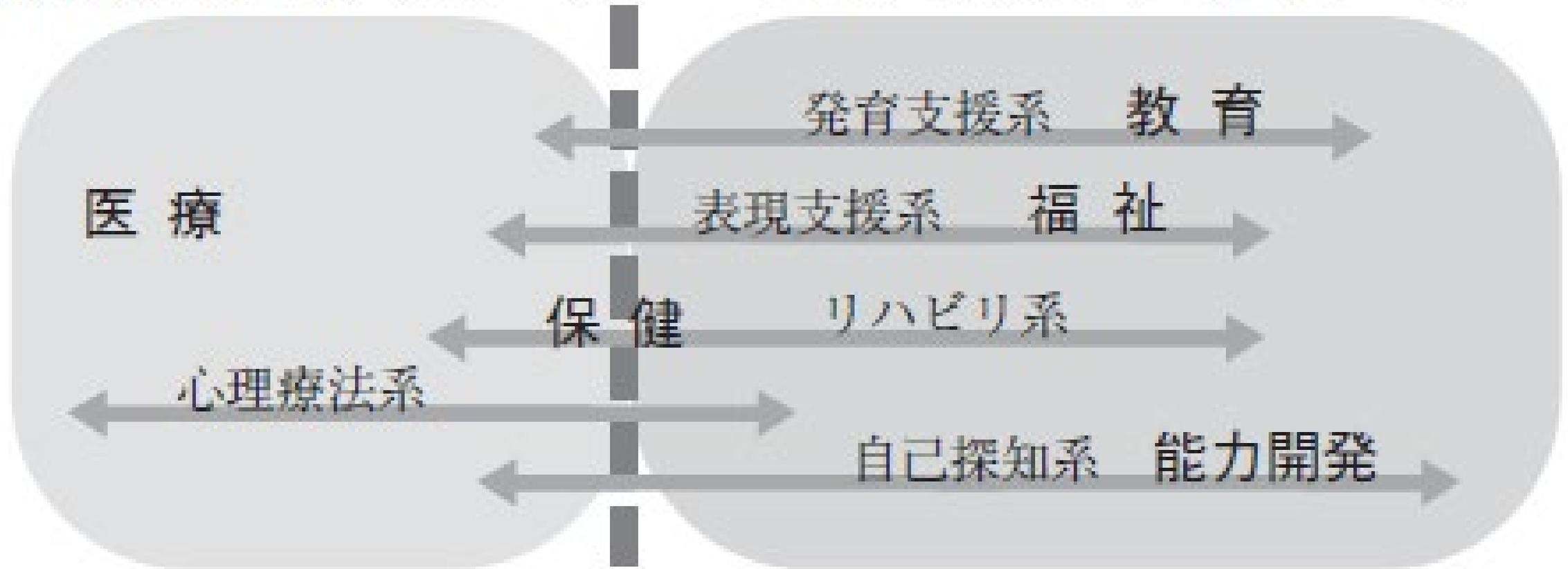


図2 日本におけるアートセラピーの活動領域・位置関係 (2014)

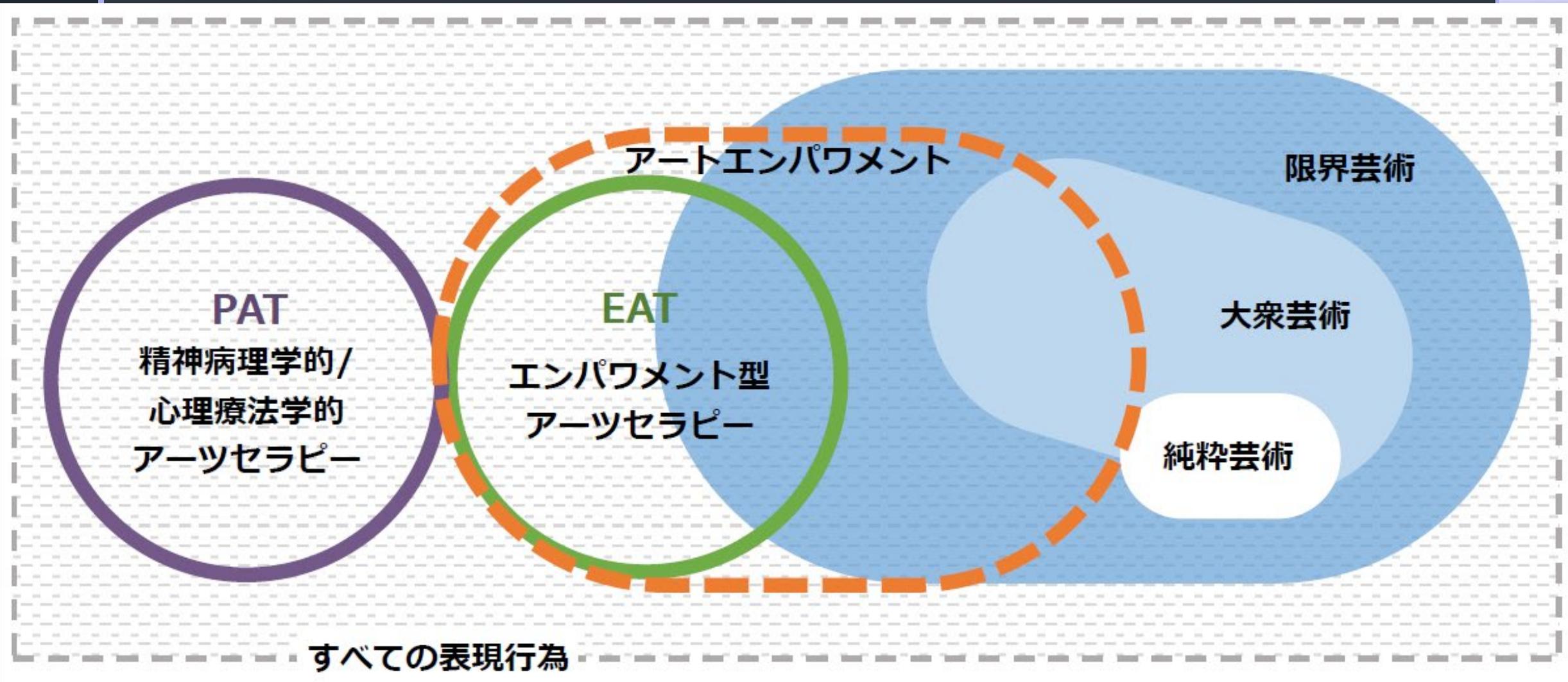


図3 現代日本のアート／セラピー／エンパワメントの位置関係（2015/2018改訂）

### 3.3. 解決すべき課題

#### 1. 持続可能性：経営資源（資金，人材）の確保

- 活動時間やEAT活動収入の少なさ，ボランティアベース運営【現状】
  - EAT活動単体による経済的自立を望む担い手が多数派【理想】
- 現況下での持続可能性向上追求が現実的（直接的解決は保留）

#### 2. 質保証：一部の担い手にみられる能力不足・認識不足

- 利用者が不利益を被る危険性がある
- 活動の担い手と利用者が共有できる評価指標の確立

## 4.1. 本研究のアプローチ

- EAT活動および担い手の「質」の向上にフォーカス



- ATAS-IIで作成された自己評価リスト（以下、ATAS-IIリスト）の再検討・改良



- EAT活動評価シートへの提案

## 4.2. EAT活動評価シート

### 【作成の目的】

1. 担い手と利用者が共有できる評価指標を確立すること
2. 学術レベルで明らかにされた構成要件をふまえ、担い手が活用できる実践的な評価ツールを提供すること

### 【作成プロセス】

- ATAS-II リスト\*を以下の点から見直し・修正
  1. 各チェック項目の重複, 漏れ・抜け
  2. チェック項目の内容・文言
  3. チェック項目の分類
  4. チェック項目の順序

\*ATAS-II リスト詳細は、兼子・石原（2017）「エンパワメント型アートセラピー概説」pp.10-18 参照

[https://kinwu.repo.nii.ac.jp/?action=pages\\_view\\_main&active\\_action=repository\\_view\\_main\\_item\\_detail&item\\_id=344&item\\_no=1&page\\_id=34&block\\_id=38](https://kinwu.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=344&item_no=1&page_id=34&block_id=38)

| 区 分         | 項 目          | チェック項目 |
|-------------|--------------|--------|
| I 担い手のスキル   | 1 知識・技術      | 4問     |
|             | 2 自己研鑽・自己理解  | 3問     |
| II 実践上のポイント | 3 アーツセラピーの実践 | 3問     |
|             | 4 対象者との信頼関係  | 3問     |
|             | 5 安全対策       | 3問     |
|             | 6 情報・ネットワーク  | 2問     |
| III 運営のスタイル | 7 経営・マネジメント  | 4問     |
| IV 価値観      | 8 基本理念・ミッション | 3問     |

図4 EAT活動評価シート構成

# I 担い手のスキル

## 1 知識・技術

|   | 自己評価                                     | 平均点 |
|---|--|-----|
| ① | アート(表現すること)が有するセラピー効果について理解し、説明できる。      |     |
| ② | 目的・ねらいに応じたアーツセラピーおよびその知識・技術を有している。       |     |
| ③ | 自分の専門領域以外のアーツセラピー(特徴等)やアーツセラピーの歴史について知る。 |     |
| ④ | 自分の活動において必要なレベルの心理療法、心理カウンセリングに関する知識がある。 |     |

## 2 自己研鑽・自己理解

|   |  |  |
|---|--|--|
| ⑤ | 活動に必要な専門的あるいは関連する知識の向上を図っている。              |  |
| ⑥ | 自己評価を行っている。                                |  |
| ⑦ | 自己の本質や傾向を理解・把握し、自分の心理的な問題については一定の整理や解いている。 |  |

## II 実践上のポイント

### 3 アーツセラピーの実践

|   |  |           |
|---|--|-----------|
| ⑧ | 自己の活動の目的・ねらい、対象者(クライアント)が明確である。                        | 1・2・3・4・5 |
| ⑨ | 対象者の状況・ニーズに応じて、的確に目的やねらいを設定し、ワークやセッションを組み立て、進めることができる。 | 1・2・3・4・5 |
| ⑩ | 対象者(クライアント)との間の心理的距離が考慮され、適切な関係が構築されている。               | 1・2・3・4・5 |

### 4 対象者との信頼関係

|   |  |           |
|---|--|-----------|
| ⑪ | 対象者(クライアント)を多角的に理解するよう努めている。                                 | 1・2・3・4・5 |
| ⑫ | 対象者(クライアント)が置かれている社会的環境、それに関連する制度・組織・サービスなどについての情報を得ようとしている。 | 1・2・3・4・5 |
| ⑬ | アーツセラピーの効果について、対象者(クライアント)にアンケートやヒアリング等を行っている。               | 1・2・3・4・5 |

### 5 安全対策

|   |  |           |
|---|--|-----------|
| ⑭ | 対象者(クライアント)のプライバシーについて守秘義務を守っている。                            | 1・2・3・4・5 |
| ⑮ | グループでのワークやセッションにおいて、参加者の発言内容やプライバシーに関して、守秘義務を守ってもらうよう確認している。 | 1・2・3・4・5 |
| ⑯ | 対象者に対して、心理的な必要に応じて個別的なフォローを行っている。                            |           |

### 6 情報・ネットワーク

|   |  |           |
|---|--|-----------|
| ⑰ | 必要に応じて相談できるスーパーバイザーや指導者がいる。                                    | 1・2・3・4・5 |
| ⑱ | 対象者(クライアント)の状態やケースの状況に応じて、適切な専門家や専門機関に繋ぐために必要な情報やネットワークをもっている。 | 1・2・3・4・5 |

# III 運営のスタイル

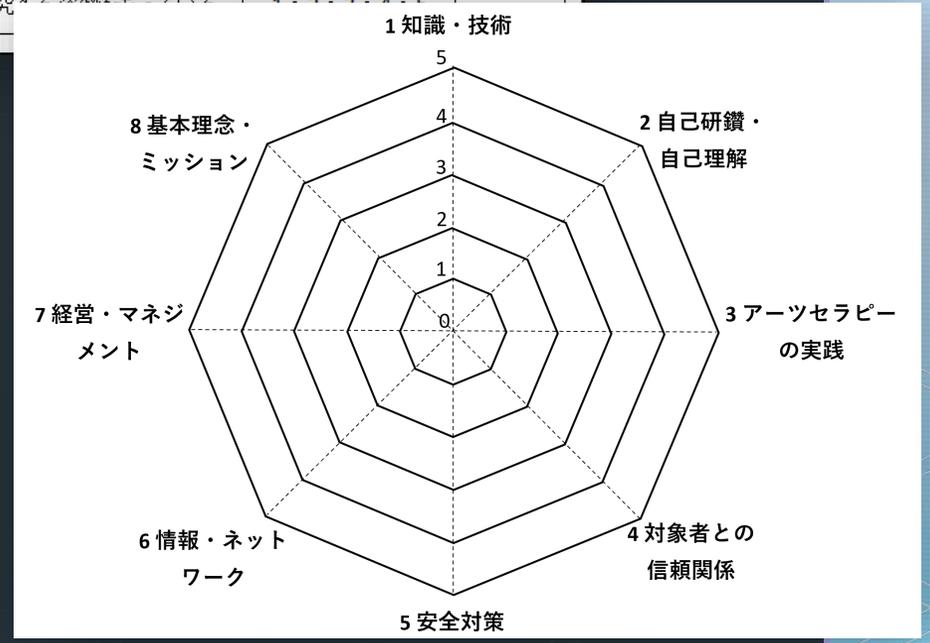
## 7 経営・マネジメント

|   |   |           |
|---|---|-----------|
| ⑲ | 継続的に活動を行っている。または、それをめざして活動している。           | 1・2・3・4・5 |
| ⑳ | 活動内容に見合う対価・報酬を受け取っている。                    | 1・2・3・4・5 |
| ㉑ | 活動に係る経費は、活動の対価・報酬や助成金等で賄っており、持ち出しに頼っていない。 | 1・2・3・4・5 |
| ㉒ | 活動計画・収支計画を立てている。                          | 1・2・3・4・5 |

## IV 価値観

### 8 基本理念・ミッション

|   |                                    |           |
|---|------------------------------------|-----------|
| ㉓ | 活動の基本理念や目指す理想が明確になっており、他者に説明できる。   | 1・2・3・4・5 |
| ㉔ | 自分のアーツセラピー活動の特徴が明確になっており、他者に説明できる。 | 1・2・3・4・5 |
| ㉕ | 表現することの本質を追究する姿勢を持っている。            | 1・2・3・4・5 |



## 4.3. 評価シート活用方法と期待される効果

### 【活用方法】

- 担い手による自己評価
  1. 25のチェック項目について5段階で回答
  2. 8項目の平均値を算出し、レーダーチャートに記入



### 【期待される効果】

1. 担い手が自分自身を第三者的視点で客観視できる（基本方針、強み、改善が必要な点など）
2. アカウンタビリティの向上→信頼性向上、認知拡大
3. データ蓄積・公開→データベース機能、利用者の便益向上、担い手同士のネットワーク形成

- EATの担い手のエンパワー
- 多様で創造的なEAT活動の促進

## 5. 今後の課題

- EATの担い手への周知, 活用促進
- 担い手からのフィードバック, 有効性の検証
- 併用する評価ツールの作成
- 活用のためのハンドブック作成

- 
- コミュニティ形成におけるEATの意義と役割
  - inclusive communityの生成プロセスの解明

## 文献

1. 兼子一, 石原みどり, “エンパワメント型アートセラピーの現在,” 心の危機と臨床の知 (甲南大学人間科学研究所紀要), vol.20, pp.21-41, Mar.2019.
2. 兼子一, 石原みどり, “エンパワメント型アートセラピー概説,” 神戸医療福祉大学紀要, vol.19, no.1, pp.1-22, Dec.2018.
3. 石原みどり, 兼子一, “エンパワメントとしての市井のアートセラピー活動—全国実態調査から見えるその内発性と自律性,” 心の危機と臨床の知 (甲南大学人間科学研究所紀要), vol.16, pp.105-130, Feb.2015.
4. 石原みどり, “日常に根ざすアートとアートセラピー—エンパワメント概念によって見えてくる構図,” a+a美学研究, vol.10, 大阪大学美学研究室, 2017.
5. ATASラボラトリーウェブサイト (神戸医療福祉大学 兼子一 教員紹介ページ「ワークス」の項目) [https://www.kinwu.ac.jp/research/teacher/kaneko\\_hajime/](https://www.kinwu.ac.jp/research/teacher/kaneko_hajime/)
6. 科学研究費助成事業ATASウェブサイト <http://i.kinwu.ac.jp/ATAS/index.html>